



## 2022年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月9日

上場会社名 浜松ホトニクス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6965 URL <https://www.hamamatsu.com/jp/ja/index.html>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 社長執行役員 (氏名) 晝馬 明  
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 管理部長 (氏名) 森 和彦 TEL 053-452-2141  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月10日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年9月期第1四半期の連結業績 (2021年10月1日～2021年12月31日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第1四半期	47,028	29.1	11,185	115.7	11,561	130.1	8,596	118.6
2021年9月期第1四半期	36,430	5.6	5,185	3.4	5,025	△2.9	3,932	△0.5

(注) 包括利益 2022年9月期第1四半期 9,600百万円 ( 140.7%) 2021年9月期第1四半期 3,988百万円 ( △18.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第1四半期	55.52	—
2021年9月期第1四半期	25.40	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年9月期第1四半期	307,358	242,827	78.7
2021年9月期	301,676	237,570	78.4

(参考) 自己資本 2022年9月期第1四半期 241,752百万円 2021年9月期 236,522百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	20.00	—	28.00	48.00
2022年9月期	—	—	—	—	—
2022年9月期 (予想)	—	28.00	—	28.00	56.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年9月期の連結業績予想 (2021年10月1日～2022年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	93,700	18.1	20,200	40.4	20,300	41.0	15,200	40.9	98.17
通期	182,800	8.1	38,500	12.2	38,900	12.3	28,300	13.0	182.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2022年9月期1Q	165,041,841株	2021年9月期	165,041,841株
------------	--------------	----------	--------------

② 期末自己株式数

2022年9月期1Q	10,214,250株	2021年9月期	10,214,250株
------------	-------------	----------	-------------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2022年9月期1Q	154,827,591株	2021年9月期1Q	154,813,239株
------------	--------------	------------	--------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、一部で企業収益や設備投資が増加するなど、緩やかな持ち直しの動きがみられましたが、期末にかけて新たにオミクロン株が国内で確認されるなど、依然として新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさは拭えず、先行きも不透明な状況となっております。

また電子部品等の材料調達難から製造、納期等への影響も出始めておりますが、2022年9月期の連結業績予想に与える影響は現時点では軽微であります。

このような状況におきまして、当社グループは、引続き新型コロナウイルスの感染防止策を講じたうえで、持続可能な社会への貢献を念頭に、当社独自の光技術を活かした研究開発・製品開発に取り組むことで、売上高、利益の確保に努力してまいりました。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの経営成績につきましては、売上高は47,028百万円と前年同期に比べ10,598百万円(29.1%)の増加となりました。また、利益面につきましても、営業利益は11,185百万円と前年同期に比べ5,999百万円(115.7%)の増加、経常利益は11,561百万円と前年同期に比べ6,535百万円(130.1%)の増加、親会社株主に帰属する四半期純利益は8,596百万円と前年同期に比べ4,663百万円(118.6%)の増加となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

#### [電子管事業]

光電子増倍管は、医用分野におきまして、フローサイトメーターなどの検体検査装置向けの売上げが国内外での需要が高まり増加いたしました。産業分野における半導体検査装置向けの売上げも半導体市場の拡大を受け、海外を中心に増加いたしました。また、高エネルギー物理学実験等の学術向けも売上げを伸ばしました。

イメージ機器及び光源につきましては、産業分野におきまして、世界的な5Gの普及やEV(電気自動車)生産の拡大に伴い、非破壊検査用のマイクロフォーカスX線源が、基板検査や車載用バッテリー検査においてアジアを中心に売上げを伸ばしました。また、シリコンウェハを高速・高品位に切断するステルスダイシングエンジン及び半導体ウェハ検査装置向けの光源の売上げも、半導体市場の拡大を受けて増加いたしました。

この結果、電子管事業といたしましては、売上高は18,737百万円(前年同期比33.8%増)、営業利益は7,235百万円(前年同期比62.4%増)となりました。

#### [光半導体事業]

光半導体素子は、医用分野におきまして、新型コロナウイルス感染症に関連したX線CT向けのシリコンフォトダイオードの売上げが国内外での継続的な需要の高まりを受けて増加いたしました。また、産業分野におきまして、半導体製造・検査装置向けのイメージセンサ等の売上げが世界的な半導体需要の高まりを受けて増加したほか、産業用ロボット等の制御などFA(ファクトリーオートメーション)分野におけるフォトIC、フォトダイオード及びLEDの売上げも増加いたしました。

この結果、光半導体事業といたしましては、売上高は22,365百万円(前年同期比36.2%増)、営業利益は7,884百万円(前年同期比78.9%増)となりました。

#### [画像計測機器事業]

画像処理・計測装置は、半導体検査装置の売上げは部材調達の影響を受けたこともあり微増に留まりましたが、デジタルカメラの売上げは生命科学やバイオ分野向けで増加いたしました。一方、PCR検査向けのカメラの売上げは検査機器の導入が進んだことにより大きく減少いたしました。加えて、食品X線検査用のX線ラインセンサカメラの売上げも減少いたしました。

この結果、画像計測機器事業といたしましては、売上高は4,691百万円(前年同期比7.3%減)、営業利益は802百万円(前年同期比11.5%減)となりました。

#### [その他事業]

半導体レーザーに係る事業、子会社の(株)磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。

当セグメント(その他)の売上高は1,233百万円(前年同期比31.0%増)、営業利益は211百万円(前年同期は営業利益11百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

流動資産の主な変動は、受取手形及び売掛金が3,356百万円、有価証券が2,018百万円それぞれ増加したことなどから、流動資産は前連結会計年度末に比べ4,064百万円増加しております。

固定資産の主な変動は、建設仮勘定が1,374百万円増加したことなどから、固定資産は前連結会計年度末に比べ1,617百万円増加しております。

この結果、当第１四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ5,682百万円増加し、307,358百万円となりました。

流動負債の主な変動は、賞与引当金が3,492百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が2,286百万円、預り金（流動負債その他）が1,748百万円それぞれ増加したことなどから、流動負債は前連結会計年度末に比べ80百万円増加しております。

固定負債の主な変動は、長期借入金が478百万円増加したことなどから、固定負債は前連結会計年度末に比べ344百万円増加しております。

この結果、当第１四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ425百万円増加し、64,531百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより利益剰余金が4,253百万円、為替換算調整勘定が1,057百万円それぞれ増加したことなどから、当第１四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ5,256百万円増加し、242,827百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年９月期の第２四半期（累計）及び通期の連結業績予想につきましては、2021年11月11日付けで公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、業績予想の前提となる為替レートにつきましては、1米ドル＝105円、1ユーロ＝125円、1中国元＝16円を想定しております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	91,087	85,450
受取手形及び売掛金	42,528	45,884
有価証券	8,671	10,690
商品及び製品	9,106	9,552
仕掛品	23,885	25,206
原材料及び貯蔵品	11,410	12,884
その他	5,622	6,707
貸倒引当金	△193	△190
流動資産合計	192,120	196,185
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	44,853	44,334
機械装置及び運搬具(純額)	12,005	12,262
工具、器具及び備品(純額)	4,923	5,169
土地	17,196	17,213
リース資産(純額)	326	368
使用権資産(純額)	611	565
建設仮勘定	6,561	7,936
有形固定資産合計	86,479	87,850
無形固定資産		
顧客関連資産	1,734	1,709
その他	3,118	3,107
無形固定資産合計	4,853	4,816
投資その他の資産		
投資有価証券	3,907	3,858
繰延税金資産	11,587	11,783
その他	2,747	2,884
貸倒引当金	△19	△19
投資その他の資産合計	18,223	18,507
固定資産合計	109,556	111,173
資産合計	301,676	307,358

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,371	9,658
電子記録債務	7,387	7,942
短期借入金	3,507	2,677
1年内返済予定の長期借入金	3,039	3,084
未払法人税等	6,700	3,729
賞与引当金	5,814	2,321
その他	18,473	22,960
流動負債合計	52,293	52,374
固定負債		
長期借入金	3,240	3,718
退職給付に係る負債	6,903	6,785
その他	1,668	1,652
固定負債合計	11,811	12,156
負債合計	64,105	64,531
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	35,008	35,008
資本剰余金	34,752	34,752
利益剰余金	185,206	189,460
自己株式	△20,797	△20,797
株主資本合計	234,170	238,423
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,191	1,107
為替換算調整勘定	1,592	2,649
退職給付に係る調整累計額	△431	△428
その他の包括利益累計額合計	2,351	3,328
非支配株主持分	1,048	1,075
純資産合計	237,570	242,827
負債純資産合計	301,676	307,358

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
売上高	36,430	47,028
売上原価	18,959	22,572
売上総利益	17,470	24,456
販売費及び一般管理費	12,285	13,270
営業利益	5,185	11,185
営業外収益		
受取利息	40	13
受取保険金	42	8
投資不動産賃貸料	18	21
為替差益	—	14
持分法による投資利益	—	221
その他	64	159
営業外収益合計	166	439
営業外費用		
支払利息	13	16
不動産賃貸費用	27	23
為替差損	205	—
持分法による投資損失	71	—
その他	9	23
営業外費用合計	326	63
経常利益	5,025	11,561
特別利益		
固定資産売却益	4	8
投資有価証券売却益	1	—
厚生年金基金解散損失引当金戻入額	164	—
特別利益合計	170	8
特別損失		
固定資産除却損	11	49
特別損失合計	11	49
税金等調整前四半期純利益	5,184	11,519
法人税等	1,264	2,909
四半期純利益	3,919	8,610
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△12	14
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,932	8,596



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	3,919	8,610
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△39	△83
為替換算調整勘定	95	1,064
退職給付に係る調整額	21	2
持分法適用会社に対する持分相当額	△7	5
その他の包括利益合計	69	989
四半期包括利益	3,988	9,600
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,985	9,572
非支配株主に係る四半期包括利益	2	27

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響について)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した、会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響について重要な変更はありません。

（セグメント情報）

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2020年10月1日 至 2020年12月31日）  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	電子管	光半導体	画像計測機 器	計				
売上高								
外部顧客への売上 高	14,001	16,426	5,061	35,489	941	36,430	—	36,430
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	147	100	0	248	243	491	△491	—
計	14,148	16,527	5,061	35,737	1,184	36,922	△491	36,430
セグメント利益	4,456	4,407	907	9,771	11	9,782	△4,597	5,185

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、半導体レーザーに係る事業、子会社の榊磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△4,597百万円には、セグメント間取引消去△191百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△4,405百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎的研究費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自2021年10月1日至2021年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	電子管	光半導体	画像計測機 器	計				
売上高								
日本	4,706	6,130	889	11,726	299	12,026	—	12,026
北米	4,945	5,775	1,519	12,241	72	12,314	—	12,314
欧州	3,751	5,378	1,164	10,295	110	10,405	—	10,405
アジア	5,268	5,073	1,107	11,450	750	12,201	—	12,201
その他	65	6	9	80	—	80	—	80
顧客との契約から 生じる収益	18,737	22,365	4,691	45,795	1,233	47,028	—	47,028
外部顧客への売上 高	18,737	22,365	4,691	45,795	1,233	47,028	—	47,028
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	404	274	0	679	429	1,109	△1,109	—
計	19,142	22,640	4,692	46,474	1,662	48,137	△1,109	47,028
セグメント利益	7,235	7,884	802	15,922	211	16,133	△4,948	11,185

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、半導体レーザーに係る事業、子会社の(株)磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。
- 2 セグメント利益の調整額△4,948百万円には、セグメント間取引消去△479百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△4,469百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎的研究費であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- 4 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## 2 報告セグメントの変更等に関する事項

「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益の算定方法を同様に變更しております。なお、この変更による各報告セグメントにおける当第1四半期連結累計期間の「外部顧客への売上高」及び「セグメント利益」への影響は軽微であります。